

## 2019 CIVL速報

by 岡 芳樹、北野正浩

日程：2019年1月31日、2月1日 各部会

2月2、3日 総会

場所：ローザンヌ、スイス

総会参加国：ブラジル、台湾、デンマーク、フィンランド、マケドニア、フランス、ドイツ、イラン、イタリア、日本、コソボ、オランダ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、セルビア、スロベニア、スエーデン、スイス、トルコ、イギリス、アメリカ合衆国。

委任：アルジェリア=>フランス、ラトビア=>スエーデン、クロアチア=>スロベニア、カナダ=>アメリカ合衆国。

### F A I 関連

- 1) F A I 事務局長からの話で、9月中旬にドローン（商業的）との共生（エアスペースの使用に関して）に関する会議を開く。
- 2) F A I 全体の公認大会の48%はC I AM（模型）、40%はC I V Lで突出している。
- 3) ドローンが急成長している。
- 4) F A I, N A C (National Airports Control), A S C (Air Sports Commission)が協力して、航空スポーツの発展のために努力する環境を作り出すプロジェクト（One FAI）が立ち上げられた。
- 5) 現状のF A I のS L発行システムは問題が多い（国により高額であったり、いろいろな制約があつたりする。）ので、F A I が直接、定額で発行するようなシステムに変えてゆく（実現には数年かかる？）
- 6) WAGに関して、場所はトルコで2020年の予定であったが、諸般の事情で2022年開催となった。またこれまで現地の主催者が主体であったが、多くの問題が起きた経験から、現地の主催者の協力の下 F A I が主体となって運営する方向。F A I との協議の末、C I V L関連としては、
  - ・第18回P G X C世界選手権
  - ・第12回P Gアキュラシー世界選手権
  - ・第4回P Gアクロバット世界選手権
  - ・第3回HGWAG選手権として開催する方向。

また、2022年には、HGパンアメリカン選手権とPGアジア選手権が適切なオーガナイザーからの立候補がない限り、大陸選手権は開催しないこととすることになった。

### C I V L全体

- 1) P Gアキュラシー用AMD（自動計測装置）一式（風速計も含む）を購入。カテ1大会に無償で貸し出し（ただし運送料は必要）。P Gアクロ用ラフトを購入する予定。無償で貸し出し（ただし運送料は必要）。
- 2) 2017年の総会ならびに2018年の理事会決議により、公認大会申請管理システム（AMS）と大会管理システム（EMS）のソフトの開発を行っている。AMSは具体的に、オンラインで公認申請を行えるようにするソフトで、開発費用はF A I（50%）とC I V L（25%）、C I AM（25%）で分担し、C I V L分は約7200ユーロ（93万円）。

EMSは具体的にはAIRTRIBUNEのようなもので、大会の案内、オンラインエントリー、F A I スポーティングライセンスのチェック、大会結果のアップロード、W P R S ポイントの計上などをするソフト。当初はF A I の他の種目でも運用できるものを考えていたが、時間がかかったり複雑であったりして非現実的なため、C I V L 専用なものとし費用は全額C I V L が負担することとする。いくつかのソフト会社に相見積もりを取り、最も安価で、すでにF A I と取引をしているウクライナの Noosphere に発注する予定。予算は6万ユーロ（780万円）。目標は、来年のカテ1大会で使用できること。

### 3) S 7 共通 12. 4 項（公認申請料に関して）

申請料の返却に際して、事務手数料（50€）は差し引かれる。大会参加費が、払い込む日付で異なる場合は、最も金額が低いものを基準とする。との文言が追加された。

### 4) S 7 共通 6. 3 項（ローカルルールの承認と公表に関して）

これまでC I V L が… となっているところを現実に即して、C I V L 理事会が… と変更する。

### 5) S 7 共通 11. 1. 2 項（スチュワードの任命に関して）

スポーティングコード総則に合わせて、また現状行っていることに合わせる。

現行のS 7では、C I V L は大会主催者と協議して1名あるいはそれ以上のスチュワードを任命する。スチュワードの国籍は、大会主催者と同じ国籍でないこと。となっているところを、C I V L は大会主催者と協議して1名のスチュワードを任命する（大会主催者と同じ国籍でもOKになる）。と変更する。

### 6) S 7 共通 12. 2. 1 項（カテ2大会に関するN A Cによる許認可に関して）

現行ではN A Cの存在しない地域においてカテ2大会を開催することは想定されていないが、そのような地域においても大会を通じてこのスポーツを発展させるために、N A Cの存在しない地域においてもカテ2大会を開催できるようにするために、「N A Cの存在しない地域で大会を開催するには、大会主催者はその地域の適切な管理者（スポーツ省、民間航空局など）に通知しなければならない。通知したことを証する書面がF A I /C I V L に公認申請用紙と共に提出されなければならない。」との文言を追加する。

### 7) S 7 共通 4. 4 項（セーフティディレクターに関して）

現行のルールでは、セーフティディレクターの唯一の責任は安全であるとしている（他の仕事は兼務できない）ところを、少し緩めて、主催者の安全に対する取り組みが十分であるならC I V L 理事会は了承することとする。「唯一の」と言う文言を「主たる」に変更する。

### 8) フランスからの提案

S A F E P R O のタンデム技能証に関しては、訴訟問題にも影響するので、法律家の意見も参考にして理事会に一任する。

### 9) 財務報告と予算案は承認された。

## H G / P G X C 関連

### 1) S 7 A 7 項（コンプレインとプロテストの時間に関して）

時間の基礎となるプロビは本部の公式掲示板に掲載されたものとする（ネットなどで出されたものは考慮しない）。コンプレインおよびその結果は本部の公式掲示板に掲載される。

コンプレインの結果に不服な場合、プロテストを提出する。最後とそのひとつ前のタスクに関して、プロテストはコンプレインの結果が公表されてから1時間以内になされなければならない。こととなった。

2) S 7 A 2. 2. 7 項 (スクリーニングコミッティーに関して)

該当する委員会（選手権がPGXCであればPGXC委員会）の委員長を含める。その委員長がスクリーニングを主導し、NAC、主催者CIVL会長に報告する。こととなった。

3) S 7 A 5. 5. 3 項 (スコアシートに関して)

現状ではスコアシートがオフィシャルになったかどうかが判然としないのを是正するため、「コンプレインあるいは未解決のプロテストあるいは問題がなければ、日々パイロットブリーフィングの前にスコアシートはオフィシャルと明記される。大会最終日のパイロットブリーフィング前にそれまでのすべてのタスクの結果はオフィシャルと明記されなければならない。」を追加。

4) S 7 GAP 4. 2 項 (距離に関して)

HGとPGで違う取り組みとなっていたがこれを統一して。両方とも、WGS84を使用することとする。

5) S 7 A GAP 8. 1. 1 項 (ターンポイントシリンドーへの到着に関して)

これまでの経験を考慮して、カテ1ではトレランスを0. 1%ととし、カテ2ではFAI球体をいまだに使用しているパイロットを考慮してトレランスを最大で0. 5%とする。

6) S 7 共通 12・5・1・1 項 (XC (HG/PY) カテ2大会での大会成立条件に関して) 最少人数に関して、現在は規定がないが、参加者が1名の大会が意味を成すかと言うことで、最少人数を2名とする文言を入れることとなった。

7) S 7 共通 4. 4. 2. 1 項 (XC大会におけるセーフティコミッティーに関して)

人選は、飛行エリアとコンディションに精通したパイロットのみとし、その大会で上位に来るものだけではなく、幅広いレベルのパイロットを含むものとする。コミッティーメンバーは無線を傍受できるようにしていかなければならない。を追加する。

8) S 7 A GAP 11. 2 項 (タイムポイントに関して)

ベストタイムとして何を採用するかが明確でなかったので、ベストタイムはゴールした選手の中でのベストタイムとする。を追記する。

9) ポルトガルからの提案

S 7 D 3. 2. 1 項 HGとPGの記録飛行に関して、3. 2. 1. 1 項として「直線距離飛行および直線目的地距離飛行において、発行方法（フットランチとトーイング）により記録を分ける。」を追加する案は否決された。

10) ポルトガルからの提案

ルール上カテ2大会申請が30日前になってることで、当日の天候が悪く大会が成立しないことがある。それを避けようとして天候がはっきりしてから大会を開催すると、カテ2申請をできないことになるが、このような大会もWPRSポイント計上できるようにしたいという提案は、S 7 共通 12. 2. 3 項（予備日）の文言「一つの予備日...」となっているところを「いくつかの予備日...」と変更することの提案に改めて提出され承認された。

11) ブラジルからの提案

記録を狙うあまりに、暗くなるまで飛ぶ危険性を避けるために、S 7 D 1. 5. 4 項（達

成されなかったフライト)に、記録飛行は当該国のルールに従うか、日没までに終了することとなる文言を追加する。は承認された。

#### 1 2) ブラジルからの提案

S 7 D 3. 3. 1 項 前もっての宣言に不正を防ぐために、目的地宣言飛行に関してはティクオフ前にパイロットのN A Cに電子メールあるいはその他の電子的方法で通知することを追加する。は承認された。

#### 1 3) ブラジルからの提案

エラプスタスクにクロックスタートを導入する案は取り下げられた。

#### 1 4) ブラジルからの提案

気象条件などが厳しい中、レースでタスクをスタートし、選手が1人でも飛んだ後に、エラプスに変更して何とかタスクを成立させられるような提案は、カテ2大会のみに可能なこととし文言を修正し、大会開催のガイドラインに盛り込むことで承認された。

#### 1 5) ハンガリアのパイロットからS 7 Dに関する提案

説明文が不明瞭だったり、項目の分類が不適切であったりしているところを整理する提案は承認された。

1 6) 競技で使用可能なCIVL フライトレコーダー・スペシフィケーションを満たすGPSの一覧はCIVL ウェブサイトに掲載完了。新しい機種が発売されてもすぐに一覧を更新できる体制ができた。

## H G 関連

#### 1) アメリカ合衆国からの提案

H G クラス2の大会においてティクオフにドリーを使用することを許可する案は理事会に委任することとなった。

#### 2) フランスからの提案

H G クラス2の大会でモーターを使用した発航を許可する提案は理事会に一任し、C A S Iによる整合性を確認することとなった。

## P G X C 関連

#### 1) S 7 G A P 1 0 項 (P Gでのリーディングポイントに関して)

2 0 1 7年の総会で決定し、実際に使われたL Pをそれまでのものの2倍とすることは、2 0 1 8年のヨーロッパ選手権で期待していない悪影響(ガーグルから誰も先に出たがらなかつたり、E S Sを先頭に切った選手が実際のタスクランキングでトップ2 0にも入らなかつたりした)が出たので、これをもとに戻すこととする。

#### 2) S 7 A 2. 1 項 (エントリーに関して)

現在P Gでは最大人数を1 5 0名としているが、安全上の問題(特にスタート前)でこれを1 2 5名に削減するという提案であったが、人数を減らすことがすぐに安全につながるか疑問、タスク設定とかL Pの配分とかその他の方法で解決できるのではとのことで、今回は見送りとなった。

#### 3) S 7 A 8. 5. 4 項 (P Gでのバラストに関して)

これまで、パイロットの空身の体重を測定し、それに対して33kgのバラストを積むことが許されていた。また、但し書きで飛行重量95kgまでバラストを積むことが許されていた。しかしこのコントロールは大変難しく、不正が行われていたことと、PWCでバラストの制限を取り扱って、上手くいっていることから、バラストに関する規制をなくし、ただ単にグライダーの許可されている飛行重量に収まっているかどうかだけをチェックすることとする。

#### 4) スイスからの提案

PGにおけるジュニアクラスに関して、とりあえずWPRSランキングにジュニアクラス（25歳以下）を設け、選手権者に関しては今後判断することで承認された。

#### 5) フランスからの提案

S7共通 2.5.2項 ディフェンディングチャンピオンの参加に関する項に、PGXC選手権に対して、女子WPRSランキングのトップ5の選手が特別枠で参加できるようにする提案は承認された。

#### 6) パラグライディング・ワールドカップ・アジアツアーオンライン説明会

このスポーツが発展してきているアジアにおいて、アジアパイロットがもっと容易にカテゴリー大会にアクセス出来、レベルを上げ、WPRSランキングでも上位に入れるようにPWA、CIVL、FAIが協力してサポートをしていく。4月には中国のJingmen市において、このコンセプトに賛同する国の代表に対するセミナーを行い、大会をいろいろな国で開催支援をしてゆく。今年は7月に中国（内蒙）  
、10月に韓国（Gochang）で開催することが決定している。

### PGアキュラシー関連

#### 1) WPRSポイント計算に関する提案

現行のWPRSポイント計算式の  $Pq$ （参加選手の質に関する係数、参加選手の50%の人数のWPRSトップランキング選手のWPRSポイントを合計したものにより決定され、トップランカーが全員参加していると係数は1になり、トップランカーが1人も参加していないと最低の0.2となる係数）と  $Ta$ （大会の成功度を図る係数。成立ラウンド数により変化する。現在は1ラウンドで0.5、2ラウンドで0.8、3ラウンド以上で1となっている）に関して、改定をする。 $Pq$ に関しては50%ただし、最大30人とする（こうすることで、世界選手権やヨーロッパ選手権のように参加選手数が大きくなった場合に50%が大きな人数となり、WPRSポイントの下位選手も計算に組み込まれてしまい、そのような大会での質が低下し参加選手が獲得できるWPRSポイントが下がってしまう弊害を是正する。 $Ta$ に関しては提案通り承認され、12ラウンドで係数は1となり、これまでの3ラウンドでは0.7となる。

#### 2) S7Cの改定案は、2.4項 選手選抜に関して、提案では選手のWPRSランキングを使用して...なる文言があったが、これは意味をなさないのでこの文言を削除した形（S7Aの2.4項（HG/PGXC用）と同じ文言）に変更して、全体が承認された。

#### 3) スイスからの提案

PGにおけるジュニアクラスに関して、とりあえずWPRSランキングにジュニアクラス（23歳以下）を設け、選手権者に関しては今後判断することで承認された。

4) エストニアからの S 7 C に関する提案は反対多数で否決された。

### PG アクロ関連

#### 1) (予算措置に関して)

ジャッジセミナーに 8000 ユーロ、ジャッジセミナー教育ビデオに 2000 ユーロ、ランディング用 4 × 4 m のラフトに 3000 ユーロ、2012 年から使用しているスコアリングソフトの更新に 1200 ユーロは承認された。

#### 2) S 7 共通 12. 5. 1. 3 項 (カテ 2 アクロバット大会に成立に関して)

カテ 2 大会での大会成立に関わる最低参加選手数を現行の 10 人から 2 人に変更する。

#### 3) スイスからの提案

PG におけるジュニアクラスに関して、とりあえず WPRS ランキングにジュニアクラス (23 歳以下) を設け、選手権者に関しては今後判断することで承認された。

### その他

#### 1) 選手権の開催地決定

- ・ 2020 年第 4 回 PG XC パンアメリカン選手権は Baixo Guandu ブラジル
- ・ 2020 年第 3 回 PG アクロ世界選手権は Trasaghis イタリア
- ・ 2020 年第 2 回 HG クラス 1 スポーツ世界選手権、第 14 回 HG クラス 1 女子世界選手権、第 9 回 HG クラス 5 世界選手権、第 12 回 HG クラス 2 世界選手権は Groveland アメリカ合衆国
- ・ 2020 年第 1 回 HG クラス 1 パンアメリカン選手権は Big Spring アメリカ合衆国
- ・ 2021 年第 23 回 HG クラス 1 世界選手権は Krushevo マケドニア
- ・ 2021 年第 17 回 PG XC 世界選手権は Annecy-Chambery-Passy フランス
- ・ 2021 年第 11 回 PG アキュラシー世界選手権は Prilep マケドニア

#### 2) 各賞の推薦

- ・ FAI GOLD メダル : Domina Jalbert ラムエアーパラフォイルを発明した
- ・ FAI AIR SPORT メダル :  
\*Associação Capixaba de Voo Livre (ACVL) 第 3 回 PG XC パンアメリカン選手権主催者 (Baixo Guandu ブラジル)

\*Sport Club Cross Country XSC 第 20 回 HG クラス 1 ヨーロッパ選手権、第 8 回 HG クラス 5 世界選手権主催者 (Krushevo マケドニア)

\*Portuguese Free Flight Federation (FPVL) 第 15 回 PG XC ヨーロッパ選手権主催者 (Montalegre ポルトガル)

\*Društvo Adrenalin and KJP KrokarŽelezniki 第 6 回 PG アキュラシヨーロッパ選手権主催者 (Kobarid スロベニア)

・ CIVL HG&PG ディプロマ : フランスから Jean-Louis Darlet フレンチコネクションなどを考案

・ CIVL Pepe Lopes メダル : スロベニアから Rok Dolinsek そのスポーツマンシップに対して

#### 3) 次期総会開催場所は理事会が正式ではないが立候補の意思がある Istanbul (トルコ)、

Ohrid (マケドニア)、Belgrad (セルビア) の中から決定する (3月中旬をめど)。

4) 役員選挙

会長 : Stephane Malbos (フランス 再選)

副会長 : Goran Dimiskovski (Macedonia 再選)

Igor Erzen (スロベニア 再選)

Zeljko Ovuka (セルビア 再選)

Jamie Shelden (アメリカ合衆国 再選)

事務局 : Mitch Shipley (アメリカ合衆国 再選)

会計 : Andy Cowley (イギリス 再選)

HG XC 委員長 : Jami Shelden (アメリカ合衆国 再選)

P G XC 委員長 : Goran Dimiskovski (マケドニア)

P G アキュラシー委員長 : Riikka Vilkuna (スエーデン 再選)

P G アクロバット委員長 : Claudio Cattaneo (スイス 再選)